



公益社団法人

日本語教育学会

## 2024 年度東北支部活動 開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会  
開 催 日：2023 年 12 月 14 日（土）9：30-12：00  
会 場：オンライン  
参加人数：37 名（会員 20 名、一般 17 名）

2024 年度の東北支部活動は 12 月 14 日（土）にオンラインで開催しました。今年度のテーマは「地域の日本語教室の立ち上げと運営」です。在留外国人も 340 万人を超え、日本語教育の重要性が議論されている中、東北には、外国人等に対する日本語教育の実施が確認できていない市町村、いわゆる「日本語教室の空白地域」も依然として数多く残されています。また、実際に教室が立ち上がった後も、今度はそれをどのように自走化し運営していくのか、さまざまな課題があります。そこで、今回は、青森、宮城、山形からそれぞれの実践事例をご紹介いただき、これらの事例を通じて、地域日本語教室の立ち上げや運営における課題やその対応について学び参加者間の意見交換を行うことにしました。

登壇してくださったのは青森県観光国際交流機構の葛西暁史さん、宮城県国際化協会の大泉貴広さん、山形大学の今泉智子さん、そして新庄市民プラザ日本語教室の高橋範行さんの 4 名です。4 名からのお話を聞いた後で、対話のひろばを行いました。対話のひろばでは、3つのブレイクアウトルームに分かれ、登壇者を囲んで質問をしながら情報共有や意見交換を行いました。ブレイクアウトルームでは、参加者からの質問が途切れず、活発な意見交換の場になっていたようです。

実施後のアンケートにおいても、参加者の満足度が非常に高いことがうかがえました。土曜日の午前中のオンライン開催という実施形態についても、好評だったようです。参加者からは、「立ち上げから支援の現状、課題まで大変わかりやすく、参考になった」「なんらかの形で東北の日本語教育に関われたらとずっと思っているの、各地域ならではの取り組みをお聞きすることができ、とてもありがたかった」「それぞれの報告が具体的で、また取り組みの経過も示されていて東北 3 県の状況がよくわかり大変勉強になった」などの声が聞かれました。

今回のテーマでどのぐらいの参加者が集まるのか不安もありましたが、自治体の関係者や大学教員、地域日本語教育コーディネーターや日本語支援者、学生といった様々なバックグラウンドの方がご参加くださいました。また、参加者は東北地方だけではなく全国各地から集まっており、加えて半数近くが日本語教育学会の非会員の方ということもあり、様々な立場の方と意見交換ができる機会となりました。東北の事例ではありますが、地域日本語教育の体制整備は全国に共通した課題であることも改めて感じました。

登壇者の 4 名の皆さま、活発な意見交換に参加してくださった参加者の皆さま、本当にありがとうございました。

（報告者：支部活動委員 嶋ちはる・高橋亜紀子・田中真寿美）